

17 わたしはここにいるよ

地震で家ぞくととはなれてしまったらどうするかを考えよう。



東日本大震災の日、地震が起きたのは午後2時46分。学校にいたり仕事をしたりしている時間だったので、家ぞくがばらばらに避難した家がたくさんありました。地震のため、電話やメールが使えなくなり、家ぞくがどこにいるか分からないので、とても心配でした。そこで、避難した人たちは、自分たちの名前を紙に書き、みんなの目につくように避難所の入口において、だれがどこにいるのかが分かるようにしました。

また、どこで何が起きているのか分からないということも、とても不安でしたが、ラジオや、けいたいテレビが役に立ちました。石巻のラジオ局では、石巻のようすをつたえ続け、大切な役割を果たしました。

ただ、
○正しいことを知らせるために



避難した人たちの多くが、どこでなにが
起きているのかをラジオで知りました。
「ラジオ石巻」では、地震や津波がおきて
からすぐに、ラジオを聞いている人から集ま
るじょうほうをラジオで伝えつづけました。
また、避難所でくらしている人たちに、
ゆう気と元気をとどけようと思いました。

避難している人の名簿をつくること
で、石巻市では避難している人の数
(5万人)や避難所の数(250か所)を
知ることができました。また、「避難者
名簿」をホームページにのせて、遠くの
人にもぶじを知らせました。



か
家ぞくとはなれてしまったとき、どうしたら
れん
連らくすることができるかな。



